



## 誕生！ 国立公文書館

公文書等の管理を支える  
スペシャリスト

# 認証アーキビスト 190 人

国立公文書館は、去る1月8日付で、190人の認証アーキビストを公表した。そこで、国立公文書館 HP にある [認証アーキビストの解説](#) を引用・参照して認証アーキビストについて紹介する。(ち)

### 認証アーキビストとは【引用】

アーキビスト (Archivist) とは、公文書館をはじめとするアーカイブズ (Archives) において働く専門職員を言います。

アーキビストは、組織において日々作成される膨大な記録の中から、世代を超えて永続的な価値を有する記録を評価選別し、将来にわたっての利用を保障するという極めて重要な役割を担います。アーキビストが存在しない組織では、その時々の担当者の考えや不十分な管理体制によって、本来は残されるべき記録が廃棄されるなど、後世に伝えられるべき重要な記録、さらにその記録をもとに記されるはずの歴史が喪われてしまう恐れがあります。

このような重要な役割を担うアーキビストには、高い倫理観とともに、評価選別や保存、さらには時の経過を考慮した記録の利用に関する専門的知識や技能、様々な課題を解決していくための高い調査研究能力、豊富な実務経験が求められます。独立行政法人国立公文書館では、長年、アーキビストの養成や資格化について検討を進め、平成10年からはアーキビスト養成を目的とする長期研修の公文書館専門職員養成課程 (現アーカイブズ研修Ⅲ) を開催するなど、その養成に関する取組を進めてきました。

今回、公文書等の管理に関する法律の5年後見直しを契機として、改めてアーキビストの資格化の検討を進め、国民共有の知的資源である公文書等の適正な管理を支え、かつ永続的な保存と利用を確かなものとする専門職を確立するとともに、その信頼性及び専門性を確保するため、アーキビストとしての専門性を有すると認められる者を国立公文書館長が認証することとしました。

令和2年度の審査においては190名の認証アーキビストが誕生し、各地の公文書館等において活躍しています。

### 認証アーキビスト名簿【参照】

名簿は国立公文書館の HP に掲載されています。なお、名簿の全部または一部を無断で転載、複製、譲渡、販売および営業目的などで使用することはできません。ホームページ等に名簿の掲載を希望する場合には、事前に国立公文書館アーキビスト認証担当に連絡が必要です。また、刊行誌等に掲載を希望する場合は、事前に掲載希望範囲と頒布先等を国立公文書館の担当に相談すること。

### 申請者・認証者数【参照】

令和2 (2020) 年度は第1回。申請者数は248人、合格者数と認証者数は190人、合格率76.6%

### 認証の仕組み【引用】

認証を受けようとする者は、申請書類を国立公文書館長へ提出します。国立公文書館長は、申請者が提出した書類を基に、館に設置するアーキビスト認証委員会に審査を依頼します。同委員会は申請者が「アーキビストの職務基準書」(平成30年12月)に示されたアーキビストとしての専門性を有するか、申請書類により審査を行います。国立公文書館長はその結果に基づき、アーキビストとしての専門性を有すると認められ、登録料を納入した者に対し、以下の名称を付与し、認証状を授与します。

### 和文表記：認証アーキビスト

英文表記：Archivist Certified by the National Archives of Japan

### 認証の有効期間【参照】

認証の有効期間は、認証状交付の日から起算して5年。社会規範の変容や情報技術の進展等を踏まえ、認証アーキビストに求められる知識・技能等が時代に即して更新されていることを確認するため、更新制度が設けられる。

※更新制度の詳細は、今後通知される。

国立公文書館>「[認証アーキビストの解説](#)」

<http://www.archives.go.jp/ninsho/index.html> (2021-04-30 参照)

### おもな内容

誕生!! 国立公文書館認証アーキビスト.....	1
散歩道・のり子さんとの邂逅2回.....	2

### DJI レポート No.124 20210430

消息/やぶにらみ文献紹介/あしあと/.....	3
活動/巻末随想ルーマニア語/年賀状もう出さない.....	4

# 【アーキビストの散歩道】 のり子さんとの邂逅 2 回

小坪のり子（こあくつりのりこ）さん（以下のり子さん）とは、90年代からの知合いだ。アーカイブに関する研究会に、学校卒業したばかりの若々しいのりさんはしばしば参加していた。はじめてお目にかかった時は、茨城県立歴史館の熱心な若手、と紹介され、ご挨拶した。私はそのころ研究会を設営する側にいと記憶する。主催者側としては、若くて熱心な参加者が継続して会合に顔を見せてくれるのがとてもありがたかった。

時は流れ、私は会合の主催者の担当を終えた。そのためか、のりさんと合うチャンスがほとんどなくなった。

そののり子さん、先ごろ NHK ニュースの画面に登場して、資料説明をされているのを、偶然見ることができた。のりさんを NHK ニュースでお見かけしたのは、2 回目である。茨城県水戸市にある弘道館という資料保存機関の主任研究員、というのがニュース画面で確認した肩書だった。懐かしくて、早速メールを出したら、すぐに次のような返信があった。

「このたびは、とても嬉しいメールを賜りまして本当にありがとうございます。お名前を拝見し、とても懐かしく、とても嬉しく、感激しております。おかげ様でずっと歴史の仕事に携わることができ、国特別史跡・重要文化財の弘道館の保存活用に努めております」。メールには 2 月 17 日付朝日新聞天声人語の切抜きが添付されていた。この記事、文中にのりさんが紹介さ



活躍していることを NHK ニュースで把握できたことがとてもうれしかったからだ。正直なところ、茨城県立歴史館職員時代ののりさんは控えめな印象を持っていただけに、ニュースに映し出された活躍ぶりは私には新鮮であり、頼もしく思われたのである。

その時のメール：「先ほど 12 時の NHK ニュースで、お顔を拝見して、懐かしくてメールしています。かつて、研究会ではずいぶんお世話になった記憶があります。本日、テレビ画面でお元気でご活躍の様子を拝見し、とても意を強くしました。どうぞこれからもさらにご発展ご活躍ください。」

日をおかずのりさんから返事があった。「とても嬉しいメールをありがとうございます！お名前を拝見してとても感激しました。私は、歴史館退職後、自治体史編纂にたずさわり、平成 17 年から弘道館で学芸員を務めさせていただいており

ます。弘道館の仕事に就いて、あっという間に 10 年以上が経ちますが、その間、東日本大震災があり、被災と復旧をずっと弘道館と共に歩み、弘道館との絆はとても強く感じており

**天声人語**

始まったばかりの大河ドラマ「青天を衝け」で注目したのは竹中直人さんの存在感。水戸藩主徳川斉昭を熱く演じた。頑迷きわまる尊皇攘夷の巨魁という印象の強い人物だが、意外と開明的な一面を持つと最近知った▼幕末、コレラが猛威をふるった際、斉昭は「万民の助」にしたいと手引書を作って領内に配った。日本国中、老若男女の区別なく感染する。良医や良薬のない片田舎では患者は治療もされない」と憂い、自ら草稿の筆をとった▼勧めたのは、こまめなうがい、屋内の掃除。大酒や大食、油ものを避け、筋骨をよく動かすこと。薬石の粉末を絹の袋に入れて男性は左半身に、女性は右半身に帯びるべしなど怪しい記述もあるが、書きぶりはあくまで懇切だ▼「ほとんど知られていませんが、斉昭は研鑽を忘れた医学界を批判し、医学知識を熱心に吸収しました」。藩校だった「弘道館」の主任研究員小坪のりさんは話す。国際情勢のみならず感染症の動向にも人一倍敏感だったという▼天然痘の流行期には、種痘ワクチンの普及に力を注ぐ。土農工商の身分を問わず接種は無料。受けた子どもたちにお小遣いを与えたこともある。何としてもワクチンで領民を救いたいという熱意に感じ入る▼新型コロナでもきょうからワクチンの接種が始まる。自分の番はいつか、副反応は出ないか。だれもが期待と不安の間を行き来する。そんないまだからこそ、政府は情報開示を徹底してほしい。「万民の助」となるように。

2021・2・17

れている。スゴイ、すご〜い！資料の保存活用のプロとして主要メディアに登場するのり子さん、私にはなんとも頼もしく、輝かしく、そのことがとても嬉しい。

思い返せば 2016 年の 5 月のある日、NHK のニュースを見るときもなく眺めていたら、のりさんが画面に登場した。この時ののりさんは水戸の弘道館学芸員という肩書。嘗て、研究会に参加していたころは、茨城県立歴史館の方だった。そして、2016 年に TV 画面上で偶然出会ったのりさんは、弘道館学芸員で、専門家らしく、自信にあふれた様子だった。のりさんは弘道館で開催中の展示関し、簡潔な展示資料説明を聞いた。

その時も早速、のりさんに連絡をしてみた。なぜかという、私はのりさんが学芸員として

ます。歴史的建造物や史料を保存し、また活用にも携わる立場でございますが、私の根底には、全史料協の皆様「史料保存への思い」への敬服があり、微力ではありますが、自分が今いる場所で、「史料保存への思い」を見習って参りたいと思っております。(中略) このたびは、本当に嬉しいメールをありがとうございました。」

あれから 5 年、2021 年 2 月 14 日に再びのりさんは同じ NHK ニュースの画面に登場した。今度は、弘道館の主任研究員として、新聞にも紹介されている。のりさんの力量が周囲からも正しく認められていると思う。のりさん、これからの、ますますのご活躍ご飛躍をととても楽しみにしております。

【またいとこのブログ 2021.03.13 既報】 (ち)

◆◆◆アーキビストの消息(順不同)◆◆◆【凡例:●個人■機関】

- 樺原直樹氏 2020年3月末藤沢市退職👏同年4月から東京都公文書館専門員(整理閲覧担当会計年度任用職員)
- 田中健一氏 3月31日 鳥取県立公文書館退職👏
- 大西 愛氏 3月末大阪大学出版会退職👏
- 西木浩一氏 3月31日付で定年退職👏4月から再任用東京都公文書館課長代理(史料編さん担当)
- 林 美帆氏 3月末にあおぞら財団退職、4月からみずしま財団研究員。仕事は公害資料館づくり中心。岡山県に移られる。
- 元 ナミ氏 3月末京都大学大学文書館退職、4月1日から東京大学文書館・デジタルアーカイブ部門助教着任、職場は柏分館。

●鎌田 薫(かまたかおる)氏  
4月1日 独立行政法人国立公文書館長。2010.11～2018.11 早稲田大学総長、2019.1～早稲田大学歴史館名誉館長等歴任。

- 大平裕己氏 4月1日 東京都公文書館館長
- 新井浩文氏 4月1日 埼玉県立文書館にアーキビストとして着任。

■令和2年度国立公文書館認証アーキビスト190人誕生  
[20210108\\_01.pdf \(archives.go.jp\)](https://www.archives.go.jp/20210108_01.pdf) 【本誌1面】

●安江明夫氏 2021年1月29日逝去、享年75。元国立国会図書館副館長。資料保存に長く注力された。いただいたお年賀状には闘病中とあり…衝撃。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

●チャールズ・ケシュケメティ博士 2021年4月2日逝去、享年87。1962年ICA国際文書館評議会事務局に奉職、事務局局長・事務総長として1999年まで世界のアーカイブとアーキビストのため尽力された。(ICAメーリングリスト4月16日) 1991年春来日し、日本の桜を楽しみ、日本政府によるユネスコへの拠金額の増額を求め、結果ICAにおける日本の存在感の強化を演出した。ご冥福をお祈りします。合掌。

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。(ち)

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼沖縄県公文書館だよりアーカイブズ第60号▼琉球政府文書デジタルアーカイブ 琉政だより No.14 掲載資料には必ず資料コード・写真番号等の付記がある。デジタルアーカイブサイトへのガイドや原本閲覧のための請求番号と推測。利用者に寄り添うだけでなく、提供側の業務軽減面からも、重要な配慮であると感じる。こうした編集はすでに長く継続されている。沖縄県公文書館が長らく実践しておられる、使い勝手に優れた印刷物編集に敬意を表します。

●歴史認識日韓の溝一分かり合えないのはなぜか  
…歴史を主な取材対象とするジャーナリストである私は、

歴史の謎に迫る研究や歴史の空白を埋める資料を追い続けてきた。納得できない思いがつのうちに、自分なりの手法で日韓の歴史認識の溝の淵源がどこにあるのかを探ってみたいと思うようになった。…(オビ) 渡辺延志著 ちくま新書 2021年4月10日発行

■新型コロナウイルス関連年表 参考資料は「朝日新聞2020年12月30日朝刊、読売新聞2020年12月31日朝刊、神戸新聞2020年12月31日朝刊他」水本有香作成。『瓦版なまず』第3期第10号2021年4月24日通巻34号 p.6-9 編集人:佐々木和子、発行人:季村範江、震災・まちのアーカイブ(ち)

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.124 20210430 2021年5月3日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 [www.djichiiyoko.com](http://www.djichiiyoko.com)

2021.02.21	#Morisign 森喜朗から橋本聖子へ
2021.03.13	小塚のり子さんとの2回の邂逅
2021.04.11	年賀状はもうださない

■またいとこのブログ 放談 Tomoko&Chiyoko  
フランス在住のまたいとこ Tomoko とともに、時々話題を取り上げ「放談」のキャッチボールをするブログ。  
<https://mataitoko.blogspot.com/>

日付順収録放談のタイトル chiyoko 分のみ

2020.06.10	2020 私のコロナ経験
2020.06.16	コロナのグローバル性について
2020.06.22	コロナ前後のウソ、ホント
2020.07.12	自分史的に環境問題を振り返る
2020.07.24	オンライン終業式に思う
2020.08.07	台所のシュワサカサン
2020.08.22	酷暑の夏 三世代で過ごすひと時
2020.09.02	いとこ会オンライン
2020.09.20	紹介—岡マリの日英バイリンガル絵本(Bilingual version)『地球を救え!!グラニーバムからのメッセージ』
2020.10.04	コガラと2匹の仔猫たち
2020.10.17	コロナ禍で籠城、ペスト文学に親しむ
2020.11.01	思わぬオンライン生活が広がってきた
2020.11.26	終戦記念日 vs. 対日戦勝記念日 靴を脱いだ10歳のハリ王子に教えられた戦争終結と降伏文書
2020.12.18	大山捨松のアーカイブ探し
2021.01.24	アーカイブ資料整理と茶封筒

◆公文書を残すということ 『寒川町史研究第32号』(以下『町史研究』)2021年3月31日寒川町史編集委員会刊行、8-12p. 「公文書を保存することの意義を説き、寒川文書館においてははまだ制度整備の途上であることを憂い叱咤激励」(町史研究巻頭 高木秀彰「(特集・町制施行80周年)特集にあたって」)したもの。国際資料研究所 Web のリポジトリにも PDF を収録予定。叱咤激励にとどまらず、具体的作業を推進すべく、今年度はボランティアとしてこの制度整備のための基礎作業に取り組みたいと考えている。

◆公文書管理法と文書の保存 『松本市史研究—松本市文書館紀要—』第31号 2021年3月31日、松本市文書館刊行。2020年10月12日松本市での講演をもとに書き下ろし。国際資料研究所 Web のリポジトリにも PDF を5月上旬収録予定。(ち)

## DJ I国際資料研究所の主な活動 2021年2月1日～2021年4月30日

### ＜出講＞

2月2,9日東京学芸大学博物館資料保存論オンライン

### ＜執筆＞

[またいとこのブログ \(mataitoko.blogspot.com\)](http://mataitoko.blogspot.com) 2/20  
#Morisign 森喜朗から橋本聖子へ; 3/14のり子さんとの2回の邂逅(本誌2頁再掲); 4/11年賀状はもう出さない

2021年5月3日 DJIレポート No.124 up; 国際資料研究所 [www.djichiyoko.com](http://www.djichiyoko.com)

### ＜主催＞

2月28日 海外アーカイブ・ボランティアの会総会オンライン

### ＜参加＞

2月10日 全史料協関東部会研究例会オンライン  
2月16日 全史料協研究会オンライン  
3月6日 記録管理学会研究例会オンライン アーキビスト認証制度をめぐって  
3月10日 新型コロナ対応 公文書管理上の歴史的緊急事態に指定から1年 何が問題なのか オンライン、主催情報公開クリアリングハウス、ゲスト、三宅弘さん(弁

護士、元公文書管理委員会委員長代理)、お話三木由希子理事長

3月16日 松本市文書館運営協議会、対面、松本

3月18日 寒川文書館運営審議会、書面

3月25日 UNHCR アーカイブ課長、緒方貞子アーカイブ担当アーキビストと海外アーカイブボランティアの会メンバーの顔合わせ、zoom

3月27日 東海岸3丁目町内会役員会

4月1日 記録管理学会役員調整委員会, zoom

4月14日 寒川文書館長と辻堂で対面打合せ

4月24日東海岸3丁目町内会役員会、総会、対面

### ＜その他＞

2月1,8,15,22日、3月1,8,15,22,29日、4月12,18,26日 ルーマニア語のお稽古オンライン、3月5日には進級証書拝受。

4月9,10日 箱根対岳荘静養+すぎやまいちご園いちご狩り (平塚)

4月29日 すぎやまいちご園いちご狩り (平塚)

4月30日 北里大学病院受診、問題なしで安堵。

## ■ 巻末随想

### ◆ ルーマニア語お稽古1年



昨年2月ごろから始めたルーマニア語。ブナ・ジウワ！（こんにちは）チェ・ファチェチ？（元気？）とか、ムルツメスク・フォアルテ・ムルト（どうもありがとうございます）

す）、ラレベデーレ（さよなら）などごく基本的な表現を覚えたように思う。しかし、古希の手習いはなかなかはかどらない。覚えるよりも忘れるほうが早い。それでも、1年余りが経過したのを記念して、先生は手作りの終了証をくださった(写真)。上達していなくても、こういう「証明書」は自分の努力の証になるから、とても嬉しい。中でもうれしかったことは、スキーのジャンプ大会をテレビで見っていた時のこと。大会会場の地名が画面に表示されるのを見ていたら、ルーマニア語の特色である文字が含まれていた。それで、読み方は分からないままだったが、この文字から考えると、大会会場はルーマニアに違いない、と考えた。そうしたら、解説のコメントの中で、今回の大会はルーマニアで開催…といていた。ルーマニア語が、ほんの少しわかるようになって、とても嬉しかった。

### ◆ もう年賀状は出さない

近年お正月にいただく年賀状に、「年賀状は今年をもって終了します。」という趣旨の一文があるものが目に付きだした。「これ、サビシイ」という思いと共に約30年前にSさんが同じことをおっしゃったことが思い出されたものだ。そして、2020年のコロナ禍を経て2021年の年賀状の準備の時期が来た。10年くらい前からは、年賀状のあて名書きは市販のソフトにお任せしている。これは便利で、あて名書きはものの30分で終わってしまう。だがその結果、年賀状はとても形式的で人間味の薄いものになってしまった。機械に頼り年に一回だけ年賀状交換の意味が妙に気になりだし、30年前Sさんが言われた「これからは年賀状を出すのはやめるの。静かに暮らしたいから」という言葉は今や私の言葉でもある。

そして2021年3月、ふとひらめいた。そうだ、今年からは、年末年始の年賀状はやめよう。その代り、一日1枚はがきに近況を認めて、毎日誰かにお便りを出すことにしよう。毎日1枚、3か月で90枚、4か月で120枚くらいのお便りが書けるはずだ。というわけで4月1日から始めた一日1通のお手紙書きは、これまでに20通以上。万年筆とインクを使って認めるお手紙書きは、心休まるひと時で、なかなか気分が良い。たまに、返事を下さる方もあり、これがレトロな気分になれる。なかなか良い企画だと自画自賛している。(ち)